

2026

7月号
July

Kyushu-kyoku times

九州教区だより

生活を聞法のために—真宗門徒として—



第2期の教区慶讃法要に向けて

九州教務所長 信國 眞一

九州教区の皆様方におかれましては、日頃より、御依頼の勧募をはじめ、教区・組・寺院の運営、そして種々教化活動にご尽力を賜っておりますこと、厚く御礼を申し上げます。

さて、去る3月5日から8日まで、「第1期 九州教区宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」を鹿児島別院において厳修することが出来ました。これも偏に、皆様方の多大なるご尽力のお陰と厚く御礼を申し上げます。

このたびの「第1期 九州教区慶讃法要」では、「お待ち受け」として、毎年11月1日に「鹿児島別院仮掛所設置記念法要」を勤修してまいりました。

特に、かくれ念仏の歴史、法難の中であって命をかけて念仏の教えをいただき伝えてこられた念仏者、無数の人々の歩みを後世にお伝えしていく機縁となることをお願いお勤めしたことであります。

九州教区の慶讃法要が、宗祖親鸞聖人のご生涯に深く思いを馳せ、一人一人があらためて念仏申す自らの歩みを確かめ、そして次世代へとお念仏を受け渡していく契機とならんことを切に願うものであります。

来たる2027年3月には、佐世保別院において「第2期 九州教区慶讃法要」を厳修いたします。現在、実行委員会の皆さん方が諸準備を進めてくださっていますので、法要内容等々が決まりましたら、お伝えをさせていただきます。

九州教区となり6年目を迎えます。このたびの教区慶讃法要が、九州教区の新たなスタートの時と場となることを心より願っております。

教区内の皆様方におかれましては、引き続きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2025年度「九州教区秋安居」を開催

2026年5月13日(水)から15日(金)までの3日間、教学の振興と自信教人信の誠を尽くす教師・僧侶を育成する教区における大切な聞法研鑽の場として「九州教区秋安居」が開催されました。四日市別院を主会場とし、九州教務所及び長崎・熊本・鹿児島教務支所をリモート会場として、70名の参加がありました。

本年度は、本山の安居本講の講者である尾畑文正氏(真宗大谷派嗣講・同朋大学名誉教授)を講師にお招きし、『『顕浄土真実証文類』聞思』を講題として、真宗学の視点から浄土真宗の教相の中心課題である二種回向の全体像と還相回向の実相についてご講義をいただきました。

講義後には、各会場において攻究・座談が行われ、教区内の有縁の方々と共に学びを深める貴重な機会となりました。



講義：尾畑 文正氏



攻究・座談



「性差別の現実に学ぶ部会公開講座」を開催

2026年5月26日(火)、四日市別院において「性差別の現実に学ぶ部会 公開講座」を開催し、110名(会場参加79名、サテライト会場参加2名、WEB参加29名)の方々にご参加いただきました。

本年度は「共に生きるとは何か」をテーマに、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをお招きしました。

安田さんからは、「この社会には色々な不平等があり、自分が踏まれる側にもなれば、踏んでしまう側にもなるが、この社会の構造に気づき、それぞれが役割や声を持ち寄ることで、少しずつ変えていくことができる」とのご教示をいただきました。また、講演後の意見交換会では参加者同士が語り合うことで自らを見つめる機会となりました。





「第2回 九州教区子どものつどい」を開催

2026年5月4日(月)から5日(火)の2日間にわたり、熊本県下益城郡美里町の「美里町やすらぎ交流体験施設 元気の森かじか」を会場に、「第2回 九州教区子どものつどいーわくわくをとりのどせ! in くまもとー」が開催され、33名の子どもたちが参加しました。

1日目は、開会式の後、会場内に隠された様々なカレーの具材が書かれた札を各班がそれぞれ見つけ出すレクリエーションを行



い、その後、子どもたちは協力しながら集めた札の具材を実際に用いて、夕食のカレー作りに取り組みました。野菜を切る係や具材を炒める係など、それぞれが役割を担い、力を合わせて完成させたカレーの味は格別で、笑顔があふれる夕食の時間となりました。

夕食後には、キャンプファイヤーを囲んでレクリエーションを行い、大自然の中での特別な時間を共有し親睦を深めました。

2日目は、キンボール(大きなボールをチームで協力して床に落とさないようにするスポーツ)をチーム対抗戦で行い、会場には子どもたちの元気な声があふれていました。

青少幼年部門員をはじめ、教区内の皆さまにもスタッフとしてご協力をいただき開催したこのたびの「子どものつどい」は、たくさんの「わくわく」とおとして、つながりの大切さを改めて感じる2日間となりました。



「若僧なつどい」を開催

2026年6月3日(水)、鹿児島別院を会場に「第5回若僧なつどい」が開催され、6名の参加者が集いました。

5回目となる今回は「お寺で暮らすということ」をテーマに、「お寺」という環境で生活する中でそれぞれが抱えている悩みや感じていること、また置かれた環境や立場の違いによる多様な経験や価値観について座談が行われました。

また、普段の法事における儀式執行のあり方や、寺院後継者にお寺を受け継いでいくにあたっての現実的な課題に対する考え方等についても、活発に意見が交わされました。

参加者からは、「お寺での生活に対して、様々な受け止め方や考え方があることを知ることができてよかった」等の声が寄せられました。

閉会後には懇親会も催され、新しい発見のある若手僧侶の交流の場となりました。



「教区坊守会一泊研修会 in 熊本」を開催

2026年5月21日(木)から22日(金)の2日間にわたり「教区坊守会一泊研修会 in 熊本」が、ホテル湯の児温泉 海と夕やけ(水俣市)で開催され、全日程で合計119名の参加がありました。

この研修会は、九州教区内の各地域を訪ね、それぞれの歴史や風土を学びつつ教区内の坊守の交流を深めることを目的としています。

初日は『「ミナマタ」が私たちに問いかけるものとは～知る・学ぶ・いのちをみつめる～』という研修テーマのもと、講師に吉永理巳子氏・杉本肇氏(水俣病資料館語り部)、佐藤薫人氏(熊本中組 真宗寺住職)をお迎えし講演いただきました。語り部のお二人からは、水俣病によって分断・対立してしまった人と人との絆や、壊れてしまった自然との関係を修復し、対話と協働を通じて地域のつながりを再生していく取り組みである「もやいなおし」についてお話しいただきました。佐藤氏からは、ご自身の歩みの中で出あわれた「ミナマタ」と真宗の関わりについてお話しいただきました。講演後には、座談会と懇親会が行われ、参加者同士の交流を深める時間となりました。

また、2日目はフィールドワークとして、多くの方が被害を受けた地区、並びに水俣病資料館を見学しました。

公害の歴史とこれまでの歩みを通して、「いのち」や「差別」、そして人としての生き方について深く考える大切な機会となりました。



フィールドワーク



集合写真

2025年度「親鸞講座—正信偈に学ぶ—」を開催

仏事サポートセンター福岡主催にて2025年9月より始まった2025年度「親鸞講座—正信偈に学ぶ—」(3カ年・全20回)の第2期(全10回)が終了しました。

本講座は、真宗門徒にとって最も親しまれている『正信偈』をテーマに昨年度から継続実施しているものです。今回は会場参加16名、WEB参加50名、計66名の方にご参加いただきました。

講師の青木玲氏(九州大谷短期大学准教授)には、一句ごとの解説に加え、そこに親鸞聖人からどのようなメッセージが込められているのかということ、丁寧にお話しいただきました。

なお、本講座は次年度も青木氏を講師にお迎えし、継続して開催いたします。今後は4回の『正信偈』のお話を終えた後、テーマを『和讃』とする予定です。

皆様のご参加をお待ちしています。





「2026年度 教務所長巡回」について

このたび、下記のとおり2026年度教務所長巡回の日程について、お知らせします。

なお、止むを得ず日程が変更される場合もありますので、ご承知おきください。

期 日	時 間	組 名	会 場
8月17日(月)	15:00	熊本北組	往相寺
8月18日(火)	10:00	熊本東組	サンクラウン大阿蘇
8月19日(水)	14:00	熊本中組	熊本教務支所
8月21日(金)	15:00	熊本南組	林照寺
8月24日(月)	10:00	八女組	大谷会館(九州教務所)
	14:00	三井西組	大谷会館(九州教務所)
	14:00	長崎組	佐世保別院
8月26日(水)	15:30	熊本西組	熊本教務支所・光蓮寺(リモート)
8月27日(木)	10:30	田川組	法光寺
	14:00	京都組	浄喜寺
8月30日(日)	15:00	大分別府組	庄内公民館
8月31日(月)	14:00	久留米三井組	大谷会館(九州教務所)
9月2日(水)	14:30	三潯組	大谷会館(九州教務所)
9月3日(木)	15:30	鹿児島組	鹿児島別院
9月4日(金)	14:30	浮羽組	うきは市民ホール
9月7日(月)	13:00	宇佐組	勝福寺
9月8日(火)	14:00	奥豊後組	満徳寺
9月9日(水)	14:00	日田玖珠組	西光寺
9月10日(木)	14:00	山門東組	正覺寺
9月11日(金)	15:00	豊前中津組	正行寺
9月14日(月)	14:00	福岡組	ウェルとばた
9月15日(火)	15:00	大分東組	善法寺
9月16日(水)	13:30	唐津組	福成寺
	15:00	宮崎組	英空寺
9月17日(木)	15:00	大牟田三池組	おおむたアリーナ
9月18日(金)	15:00	山門西組	常光寺

教務所夏期事務休止のお知らせ

■期間：2026年8月8日(土)～8月16日(日) ■緊急連絡先：☎090-4988-8244

※事務休止期間中は出版物の頒布等ができませんので、ご了解いただき、お早めにご用命くださいますようお願いいたします。

※仏事代行については、事務休止期間中も対応いたします。(受付時間／7:00～21:00)

真宗大谷派(東本願寺)仏事サポートセンター福岡

TEL.092-734-0208(担当:塚寄・曾我・渡邊)までお問い合わせください。



慶讃事業のお知らせ

「第2期 九州教区慶讃法要実行委員会」を開催

5月26日(火)、来年3月に佐世保別院で厳修する第2期教区慶讃法要に向け、第3回目となる「第2期 九州教区慶讃法要実行委員会」が同別院を会場に開催されました。

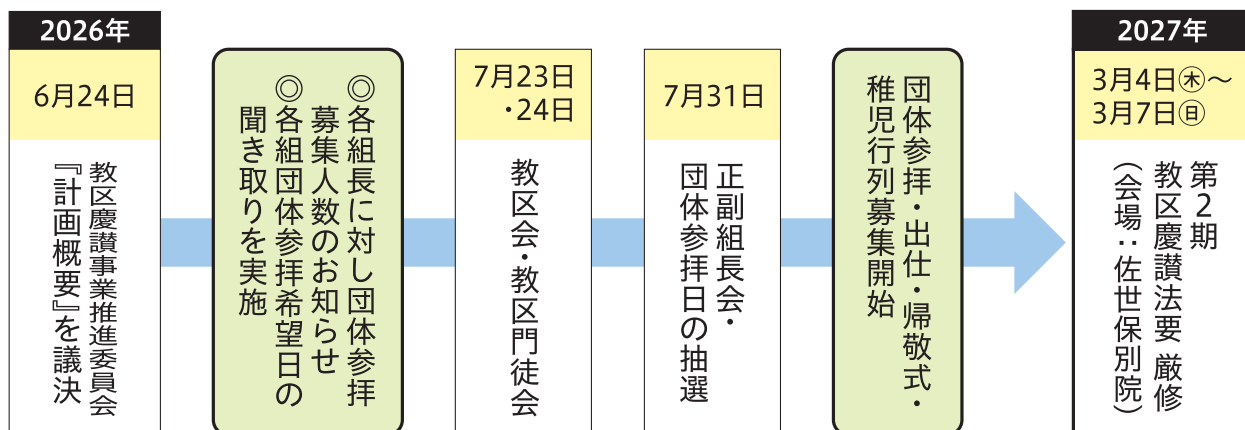
実行委員会では、今年3月に厳修された第1期教区慶讃法要の反省点・第2期教区慶讃法要に向けての申し送り事項が確認され、意見が交わされました。その後、「法要部会」「団体参拝部会」「記念事業部会」における検討内容を踏まえ、法要日程や参拝者のお迎え体制、催事等の計画概要について協議がなされました。

今後は、日程や事業内容の精査を進め、来年の法要に向けて、参拝される皆さまを安心してお迎えできるように、様々な内容を決定してまいります。

なお、現時点で確認されている主なスケジュールは下記のとおりです。



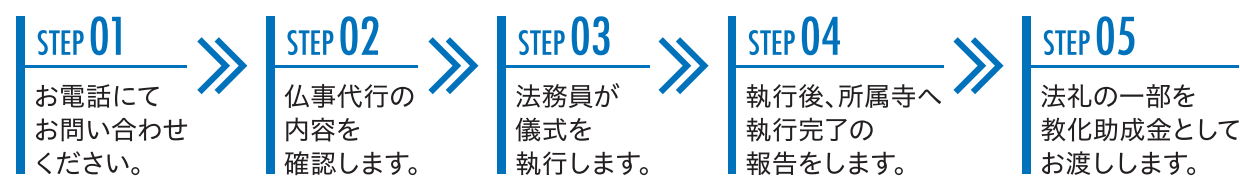
〈第2期九州教区慶讃法要に向けた今後のスケジュール〉



仏事サポートセンター福岡からのお知らせ

仏事代行制度について

「福岡都市圏に住むご門徒と郷里のお寺とのご縁をつなぐ」ことを目的として、急なご葬儀やご法事を所属寺に代わり、仏事サポートセンター福岡の法務員が執行します。また、通夜・葬儀や法事以外にも入仏式等の仏事もお受けします。



ふるさとのお寺とご縁をつなぐ
真宗大谷派(東本願寺)
仏事サポートセンター福岡
福岡県福岡市中央区今川1-9-7

お問い合わせ先

092-734-0208

受付時間/7:00～21:00

公式ホームページはこちら⇒



住職・教会主管者任命 (2026年5月28日付)

福永 潤 様 (山門西組 順光寺)

山根 顕志 様 (熊本西組 定得寺)

富重 真蓮 様 (鹿児島組 勝蓮寺)

2026年7月 ● 教区内行事予定表

日 付	時 間	内 容	会 場
8日(水)	13:30～	教区会各委員会(予算・決算・特別)	九州教務所
9日(木)	13:30～	参事会・常任委員会	九州教務所
23日(木)	13:30～	教区会	九州教務所
24日(金)	13:30～	教区門徒会	九州教務所
28日(火)	15:15～	御命日法話会	仏事サポートセンター福岡
31日(金)	14:00～	正副組長会	九州教務所

2026年7月 ● 別院・大谷会館・長崎教会・東本願寺熊本会館・門司教会行事予定表

日 付	時 間	内 容	会 場	講 師
2日(木)	16:00～	親鸞聖人に学ぶ会	鹿児島別院	長谷山 法雄
9日(木)	14:00～	非核非戦定例法要	長崎教会	近藤 祐教
12日(日)	13:30～	門司教会納骨堂追弔法要	門司教会	信國 眞一
14日(火)	13:30～	第1回 定例聞法会	大谷会館	木屋 祐真、高田 雅量
18日(土)	8:00～	土曜定例	長崎教会	田中 会響
	9:00～	長崎教会同朋の集い		
25日(土)	16:00～	歎異抄に聞く会	鹿児島別院	太田 智哉
28日(火)	7:00～	宗祖御命日晨朝兼日中・朝粥会	鹿児島別院	別院職員
	10:00～	四日市別院ご命日のつどい	四日市別院	星野 哲英
	13:00～	宗祖御命日定例法座	佐世保別院	別院職員
	13:30～	長崎教会御命日定例法座	長崎教会	教務所員
	14:00～	伊敷支院御命日同朋会	伊敷支院	大谷 直行

2026年8月 ● 教区内行事予定表

日 付	時 間	内 容	会 場	講 師
28日(金)	15:15～	御命日法話会	仏事サポートセンター福岡	—

2026年8月 ● 別院・大谷会館・長崎教会・東本願寺熊本会館・門司教会行事予定表

日 付	時 間	内 容	会 場	講 師
2日(日)	16:00～	親鸞聖人に学ぶ会	鹿児島別院	長谷山 法雄
9日(日)	14:00～	非核非戦定例法要	長崎教会	高橋 源一郎
15日(土)	8:00～	土曜定例	長崎教会	田中 会響
	9:00～	長崎教会同朋の集い		
25日(火)	16:00～	歎異抄に聞く会	鹿児島別院	太田 智哉
28日(金)	7:00～	宗祖御命日晨朝兼日中・朝粥会	鹿児島別院	別院職員
	10:00～	四日市別院ご命日のつどい	四日市別院	相良 晴美
	13:00～	宗祖御命日定例法座	佐世保別院	別院職員
	13:30～	長崎教会御命日定例法座	長崎教会	教務所員
	14:00～	伊敷支院御命日同朋会	伊敷支院	大谷 直行

今月のコラム

ちょうもん 聴聞



「聴聞」という言葉を辞書で調べると、「聴は、耳をそばだてて聞くこと。注意して聞くこと。聞は、聞こえてくるということ。」とある。

私たちが、音楽を鑑賞する時や相手の話に注意深く耳を傾ける時、またお医者さんが患者さんの体内の音を聴く聴診器など、外から聴きに往くものには「聴」の字が使われる。つまり、注意をして聴く、こちらから積極的に聴くという時に使われる。一方、雨音や風の音、蝉の鳴き声などが聞こえてくる時など、こちらが聞こうとしている、していないに関わらず、聞こえてくるという時、つまり受動的にきく時に「聞」の字が使われる。

そして、ご法話などでは、「聴聞の聴は耳できくこと。聞は心できくこと」、「往くを聴といい、来るを聞という」（中国の古い辞書『説文解字』に由来すると言われている言葉）、「聴なくして聞なし。されど聴の延長線上に聞があるのではない。聞は聴を否定する領域である。」など、様々な言葉で教えていただく。

また、宗祖親鸞聖人は、教行信証の「聴聞」という文字に「ユルサレテキク シンジテキク」と左訓（本文の左に付記された語句の注釈）を付している。「ユルサレテキク」ということは、縁あって聴くことの出来る身にさせていただいたということなのであろうか。また、「シンジテキク」とは、如来の仰せを自己自身に聞きひらくということを示しているのであろうか。分かったつもりで使っている「聴聞」という言葉について、あらためて向き合ってみなければと思う。

今月の法語

ゆかり
九州に縁の先師を憶う



如来の本願は
人間よ ほんとうの人間に
なってくださいという願い

竹下 哲

